

## 第2部 「目標とする姿」への取組み状況

### ■取組み状況について

「目標とする姿」一つひとつについて、2022年度を含む「主な指標の変化」(2007年度～)と2022年度の特徴的なトピックスを掲載し、現時点での取組み状況の評価を行っています。

#### 【評価方法】

「よくがんばりました」……▲より○が3つ以上多い

「この調子でがんばろう」…▲より○が1～2つ多い

「もっとがんばろう」……○と▲が同数、または▲が多い

2022年度も依然として新型コロナウイルス感染症の影響により、多くの活動が「規模を縮小しての開催」、または「中止」となりました。

そのため、「参加者数、利用者数、実施数」など、評価の対象として検討が困難なものについては、2022年度においても一部評価の対象から外しています。

## ■目標とする姿（第3章）

- ① 手入れの行き届いた豊かな森が、きれいな空気や水を育んでいます . . . p.7
- ② 里山がさまざまに利用され、関わる人が増えています . . . p.11
- ③ 使われていない農地の利用が進み、生きものの豊かな田んぼが増えています . . . p.14
- ④ あちこちの川や海辺で、子どもたちの楽しむ声がきこえてきます . . . p.18
- ⑤ コウノトリも住める豊かな生態系が、バランス良く保たれています . . . p.21
- ⑥ さまざまな世代の人々が、地域の祭りや行事を楽しみ、未来へとつなげています . . . p.22
- ⑦ 子どもたちが、身近な地域の自然についてよく知り、大切にしています . . . p.27
- ⑧ 市民みんなが、ごみの減量化を実践し、  
1人あたりの排出量が徐々に減っています . . . p.30
- ⑨ 市民みんなが、楽しみながら省エネ行動を実践し、  
再生可能エネルギーの利用も増えています . . . p.33
- ⑩ 環境をよくすることで経済が活性化され、交流も広がっています . . . p.36

## ■取組みの方向

- 1 森林を利用し、保全します
- 2 川や海などの水辺環境を保全します
- 3 さまざまな生きものが育む豊かな農地を保全します
- 4 農林水産業の新たな担い手を育成します
- 5 生きものがバランス良く生息する自然環境を保全します
- 6 公害や災害を防ぎ住みよい環境を守ります
- 7 地域の文化や景観を保全し、活用します
- 8 地域コミュニティ組織を中心に、地域力を高めます
- 9 環境意識を高める学習・教育を進めます
- 10 環境に関する知を集積し、活かします
- 11 ごみの減量・再資源化を進めます
- 12 省エネルギーに努め、再生可能エネルギーの利用を増やし、地球温暖化防止に努めます
- 13 地産地消を進めます
- 14 環境と経済の共鳴を進めます

# 目標像①

## 手入れの行き届いた豊かな森が、きれいな空気や水を育んでいます

### 【主な取組みの方向】

(1) (4) (5) (6) (9)

### 【具体イメージ】

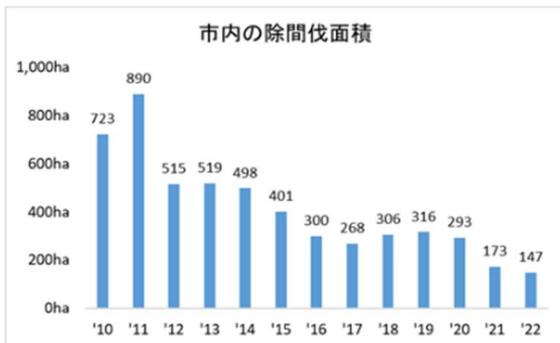
スギやヒノキの林は保育され、広葉樹も植えられています／木材の利用が増えています／パレットストーブなどの利用が家庭や事業所に広がっています

## I 主な指標の変化(2007~2022年度)

### (1) 除間伐と植樹



- ・下草の生えた豊かな森林を育てるため、太陽の光が木の根元や地面まで十分に届く環境をつくる「除間伐」を行っています。
- ・「林業の担い手不足」が、間伐面積減少理由の一つに挙げられます。

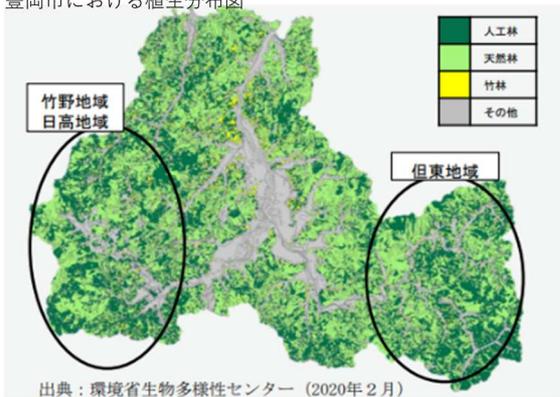


- ・市、ひょうご農林機構、民間すべての分収造林を含みます。

### 【分収造林】

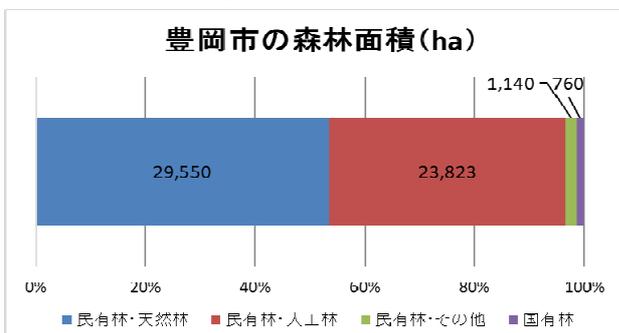
造林者と土地所有者が異なり、両者が造林による収益を分け合う契約をした山林

豊岡市における植生分布図



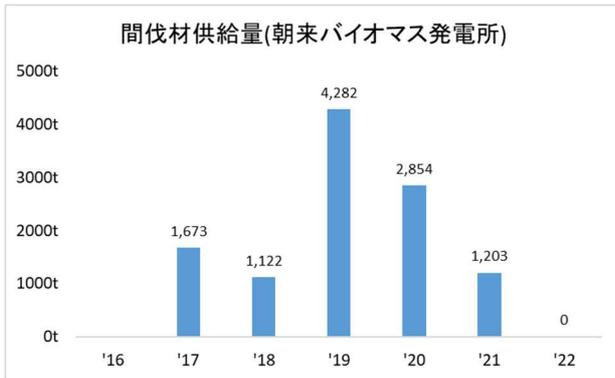
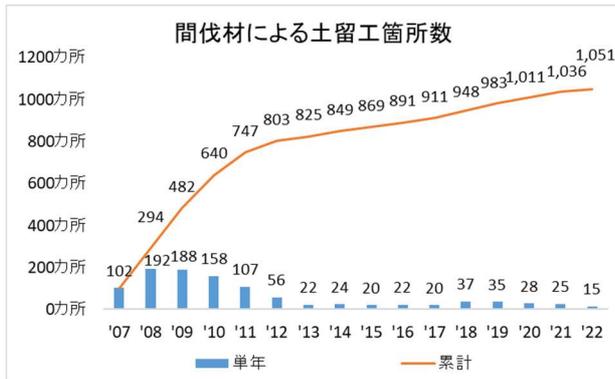
- ・豊岡市の面積の8割を森林が占め、人工林の大部分であるスギ、ヒノキの植林は31%天然林のうち多くを占めるコナラ二次林は24%となっています。針葉樹と広葉樹が交じり合った“針広混交林”を整備することは、災害に強く生物多様性に富んだ森林に繋がります。
- ・豊岡市では、針葉樹に加え、シカの食害に強いとされるウリハダカエデやミツマタ、急峻な地形でも生育可能なケヤキ等の広葉樹種が一部で植樹されています。

### 《所有別森林面積》



- ・豊岡市の森林面積のうち、約9割が民有林となっています。その内、コナラ林などの天然林が約50%、スギ・ヒノキ林などの針葉樹林が約40%となっています。【出典：兵庫県林業統計書(2022.3月発行)】

## (2) 間伐材の利用



・間伐材をそのまま地滑り防止に活用する「土留工」を行っています。

- ・豊岡コウノトリ森林組合から搬出された原木やチップが、朝来市の「バイオマスエネルギー材供給センター」を通じて、朝来バイオマス発電所(2016年12月運転開始)に供給されています。
- ・2020年度からは通常の供給体制に戻っていますが、世界的な木材需要の高まりにより、用材としての供給が増え、燃料としての供給が減り、2022年12月をもって発電を停止しています。

## (3) 森林の整備



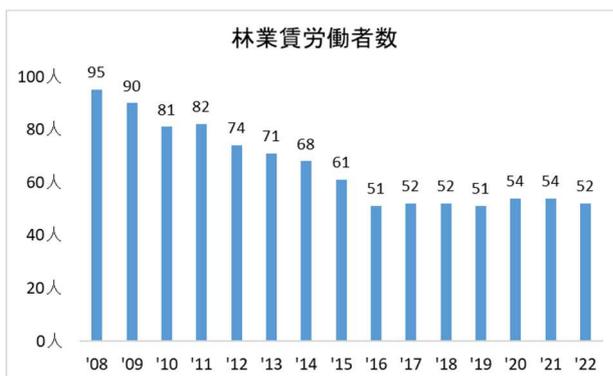
・住民参画型森林整備事業は、竹林、枯れ松、危険木伐採等により、集落の安全を確保する1カ年事業です。

(事業主体：兵庫県、実施主体：区、地域)

・里山防災林整備事業は、人家裏山の凹型斜面の崩壊、崩落を防ぐため、危険木伐採や簡易防災施設(丸太柵工等)整備を行います。2カ年事業で、1年目に調査、2年目に整備します。

(事業主体：兵庫県、実施主体：林業事業者)

・2015年から豊岡市以外の地域でも里山防災林整備事業が進んだことによる予算配分のため、豊岡市での里山防災林整備面積が減少しています。

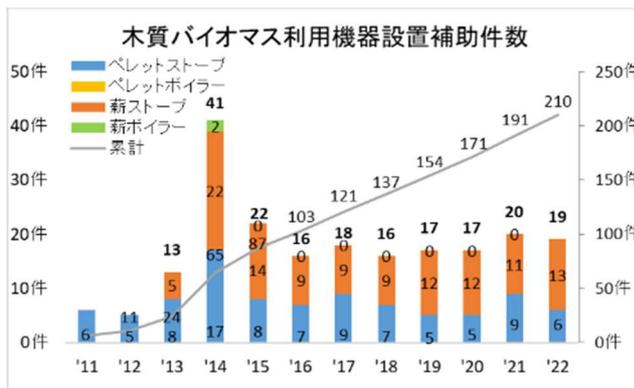
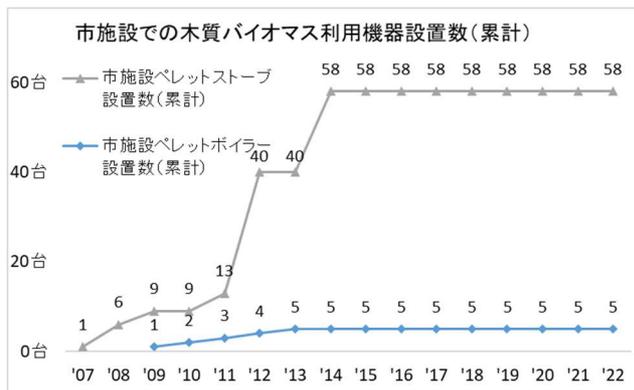


・林業就業人口は、2008年から2022年にかけておよそ40人減少しています。【出典：兵庫県林業統計書 2009～2023年度発行】

※1年度遅れでの発行となっている。

※林業賃労働者の定義は、年間50日以上現場(森林)で作業された方

#### (4) 木質バイオマス機器の利用

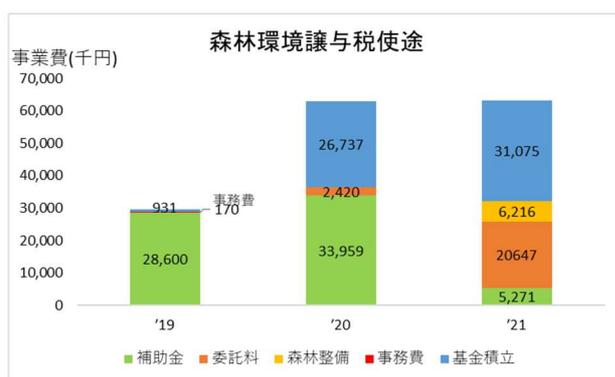


- ・2014年以降、公共施設への木質バイオマス利用機器の設置は行っていませんが、既に設置されている機器を積極的に活用していきます。

- ・木質バイオマス(薪、木質ペレット)を燃料に利用するストーブ、ボイラーの利用を進めています。個人住宅、区の集会所、事業所を対象に補助しています。

#### (5) 森林環境譲与税の使途

- ・2019年3月、「森林環境税及び森林環境譲与税に関する法律」が成立し、「森林環境税」および「森林環境譲与税」が創設されました。
- ・森林環境譲与税は、市町村による森林整備の財源として、2019年度から、私有林人工林面積、林業就業者数及び人口による客観的な基準で按分して譲与されます。
- ・間伐等の「森林の整備に関する施策」と人材育成・担い手の確保、木材利用の促進や普及啓発等の「森林の整備の促進に関する施策」に充てることとされています(林野庁)。



- ・2019年度、2020年度は補助金としての使途が多く、木質バイオマス供給に必要な設備整備として、林業事業者が導入した林業機械等導入経費へ補助を行っています。
- ・2020年度、2021年度では森林環境譲与税の約半分が「森林環境基金」へ積み立てています。基金は豊岡市新文化会館の内装に使用される兵庫県産木材の調達等に利用する計画です。

- ・2021年度は、豊岡市森林・林業ビジョンの策定や、森林台帳の所有者情報の更新や地番図整備を行う市森林整備計画調査等の業務委託料に多く使用しています。また、玄武洞公園内の景観維持や安全確保のための森林整備を行っています。

## 豊岡市森林・林業ビジョンの策定

持続可能な力強い林業、そして森林の持つ多面的機能の向上を目指し、2023年2月に「豊岡市森林・林業ビジョン」が策定されました。

同ビジョンでは、コウノトリをシンボルに、自然を守り豊かな環境を次世代へつなぐため、市民の暮らしにつながる豊かな森林の整備や、地域の森林資源が持続的に活用される循環経済としての林業の実現を目標に掲げています。



### 【目標の実現に向け、森林・林業ビジョンが掲げる4つの柱】

1. 森林特性や地域特性に応じた森林整備を推進する（主に市内林業事業者）
2. 森林にふれる人（事業者等）の確保と育成を進める
3. 森林特性に応じた木材の利用に取り組む（主に木材加工業者、建築業者等）
4. 人と森林のつながりを感じる事業を推進する（市民への協働と参画の啓発）

豊岡市森林・林業ビジョンについては、豊岡市 HP  
（下記 URL・右記二次元バーコード）からご覧いただけます。  
[https://www.city.toyooka.lg.jp/sangyo/1021071/  
1023680/1023751/1025130.html](https://www.city.toyooka.lg.jp/sangyo/1021071/1023680/1023751/1025130.html)



## 2 2022 年度評価

### 評価

- 住宅への木質バイオマス利用機器の活用が広がりつつある。
- 森林・林業ビジョンの策定により持続可能で豊かな森林づくりに向けた具体的な取り組みが議論されている。
- 森林環境譲与税が森林整備の為に計画的に利用され、適切な環境の維持存続が図られている。
- ▲間伐材が「用材」として供給・利用されているものの、間伐面積が減少している。

この調子で  
がんばろう

## 目標像②

# 里山がさまざまに利用され、関わる人が増えています

### 【主な取組みの方向】

(1) (3) (4) (5) (9)  
(13)

### 【具体イメージ】

安心して散策を楽しめる里山が増えています／食用の山菜やキノコの知識をもった市民が増えています／森林ツーリズムなどを楽しむために森に入る人が増えています／イノシシやシカは適切に駆除され、肉や皮も多様に活用されています

## I 主な指標の変化(2007～2022年度)

### (1) 有害鳥獣対策



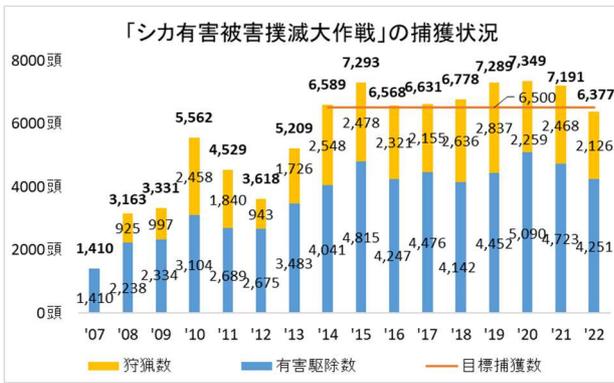
- ・継続した有害鳥獣駆除の取組みの成果が表れ農業被害は面積・被害額ともに年々減少がみられます。
- ・山奥から人里近くに被害が広がってきています。
- ・農業者アンケートを基に作成しているため、家庭菜園等の被害は含まれません。



- ・林業被害のほとんどはシカによるもので稚樹の食害が問題となっています。
- ・前年度ゼロであった有害鳥獣による林業被害は2022年度に再度発生しています。

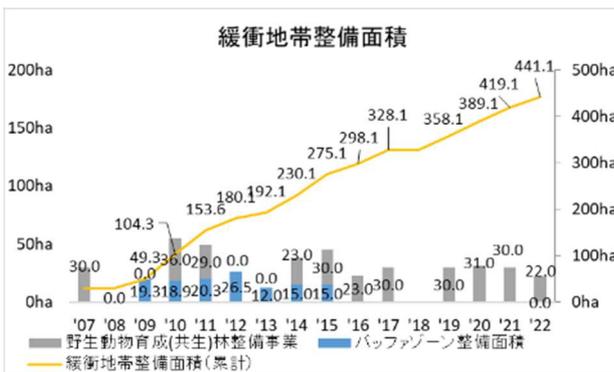


- ・シカやイノシシの数は減少してきているものの、その他の有害鳥獣駆除が年々増加しています。
- ・野生動物の移動に伴い、ヤマビルやマダニの生息域が拡大しており、今後健康被害が増加していくことが懸念されています。
- ・「有害鳥獣駆除数」グラフは、有害鳥獣駆除のみの数値で、11月から3月までの狩猟期に個人が捕獲したものは含まれていません。
- ・「その他有害駆除数」には、タヌキやアライグマ、ヌートリア、カワウ、サルなどが含まれます。



- ・兵庫県が策定する「ニホンジカ管理計画」に基づき、市では、2014年から年間捕獲数6,500頭を目標に、「シカ有害被害撲滅大作戦」を実施しています。
- ・2022年度は2014年度の事業開始からはじめて目標数を割り込みました。
- ・「狩猟数」は、狩猟期(11～3月)に個人が捕獲した頭数です。

- ・「有害駆除数」は、一般、専任班、捕獲実施隊(市鳥獣害対策員と市担当で編成)が、有害獣として捕獲、駆除した頭数です。
- ・鳥獣保護管理法に基づき、捕獲物等は原則として持ち帰ることとし、やむを得ない場合に限り生態系に影響を与えないような適切な方法で埋設することとしています。



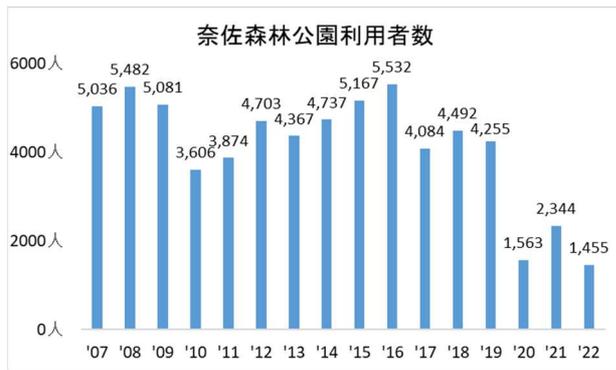
- ・このグラフの緩衝地帯(バッファゾーン)は、野生動物との住み分けを図るため設けられる、幅約20mの見通しの良い地帯を言います。
- ・バッファゾーン整備事業は2009～2015年度まで実施(事業主体：豊岡市)。
- ・野生動物育成(共生)林整備事業は、緩衝地帯と集落防護柵を一体整備する2カ年事業で、1年目に調査、2年目に整備します(事業主体：兵庫県)。
- ・2018年度は調査だけのため実績がありません。



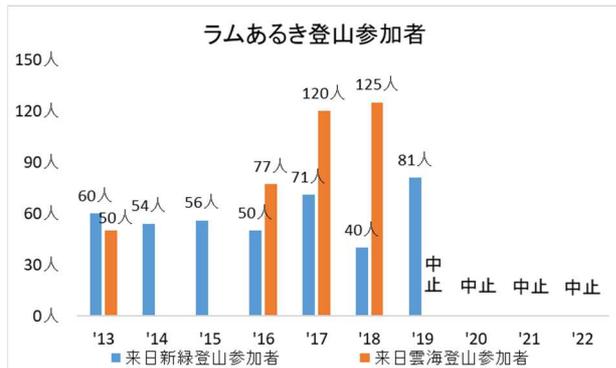
## (2) 森林公園の利用



- ・竹野南森林公園では、毎年季節に合わせた体験教室を実施しています。
- ・2022年度は新型コロナウイルス感染症によるイベント中止もあり、参加者数が減少しています。



### (3) 森林ツーリズム



・奈佐森林公園においても、新型コロナウイルス感染症の影響により、利用者数が減少したままの状態が続いています。

- ・2012年に「円山川下流域・周辺水田」がラムサール条約に登録された翌年から、来日山の山頂からラムサール条約湿地を眺めるイベント「ラムあるき登山」を、5月と10月に地元主催で実施しています。
- ・2022年度も、新型コロナウイルス感染症の拡大の影響により、新緑登山、雲海登山ともに中止となりました。

## 森のようちえん「つむぐり」の活動

環境保全型の林業に取り組むNEXT GREEN 但馬が主催する森のようちえん「つむぐり」は、2021年から加陽水辺公園を拠点とし、加陽湿地や大師山、周辺に広がる農地をフィールドに、未就学児を対象に自然活動体験を中心とした野外保育を行っています。

コウノトリも暮らせる豊岡の豊かな自然環境の中で、子どもたちが日常的に自然に親しむ環境をすることで、街や家の中では得ることのできない経験を通じ、子どもたちの感受性や創造性、生きものを慈しむ心を育みます。

2022年度は子どもクラス（平日預かり保育）のほか、親子参加型クラスの活動を実施し、のべ508人の参加がありました。



(写真 森のようちえん つむぐり)

#### 【森のようちえん】

自然環境を利用した保育や  
幼児教育、子育て支援活動

## Topics

## 2 2022 年度評価

### 評価

- シカ有害被害撲滅大作戦の年間捕獲目標数 6,500 頭を9年目にして初めて割り込んだものの、依然として6,300 頭以上という高い数値を維持している。
- 有害鳥獣の捕獲や防護柵の設置、緩衝地帯の整備が進んでおり、農林業被害面積や被害額は減少している。

この調子で  
がんばろう

# 目標像③

## 使われていない農地の利用が進み、生きものの豊かな田んぼが増えています

### 【主な取組みの方向】

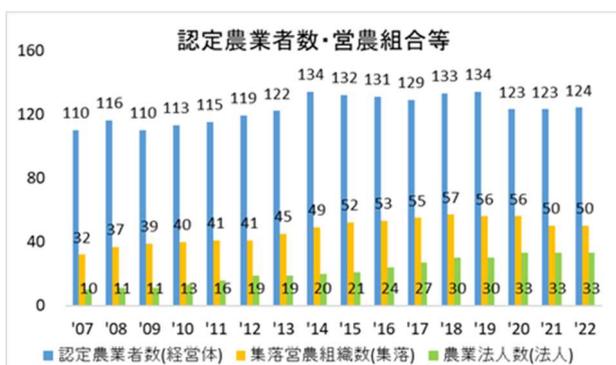
(3) (4) (5) (9) (10)  
(13)

### 【具体イメージ】

農薬や化学肥料に頼らない農業が広がっています／就農する若い人が増えています／学校や家庭の食卓に豊岡でとれた安全安心な食材が並んでいます／多様な生きものと触れ合う子どもの姿をよく見かけます／ビオトープ水田などさまざまな使われ方で農地が活かされています

### I 主な指標の変化(2007~2022 年度)

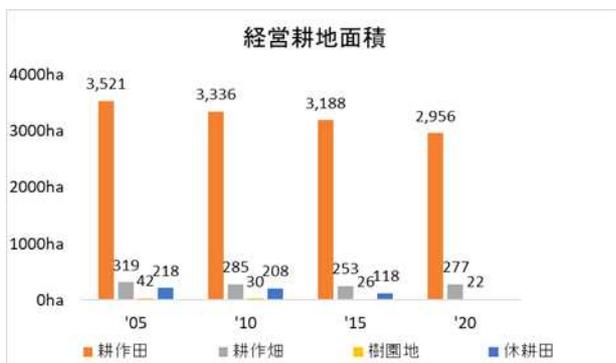
#### (1) 豊岡の農業の現状



・就農者の高齢化や減少が進む中で大規模集約化の方向にあります。

#### 【認定農業者】

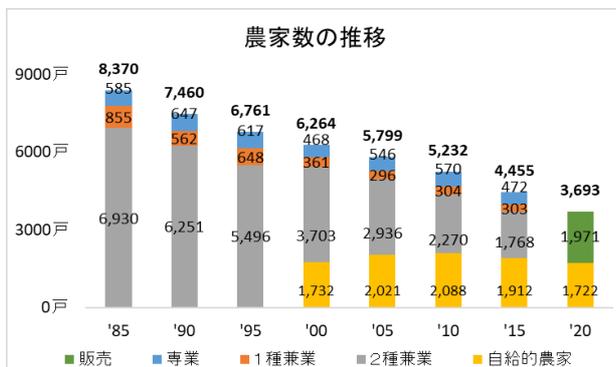
農業経営改善計画を市町村に提出し、認定を受けた農業経営者・農業生産法人



#### 【経営耕地面積】

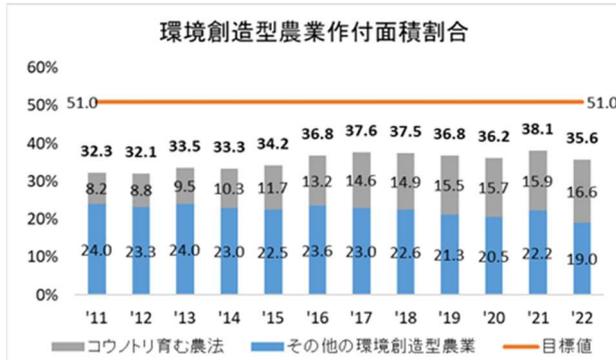
農家が経営する耕地の面積  
2020年から集計方法が変更。経営耕地のある経営体の数と経営耕地面積を把握（休耕地面積は把握せず）

- ・2000年以降の専業、兼業農家は「販売農家」に限られ、自給的農家の専業別調査が簡素化されました。
- ・2020年から集計方法の変更に伴い、専業、兼業別の把握が廃止となり、「販売農家」の枠組みでの把握となります。
- ・高齢化や担い手不足により農家数が減少していると考えられます。
- ・「経営耕地面積」及び「農家数の推移」は、5年に一度行われる農林業センサスの結果を記載しています。



- 【第1種兼業農家】 農業所得を主とする兼業農家
- 【第2種兼業農家】 農業所得を従とする兼業農家
- 【販売農家】 経営耕地面積が30a以上または農産物販売金額が50万円以上の農家
- 【自給的農家】 経営耕地面積が30a未満かつ農産物販売金額が50万円未満の農家

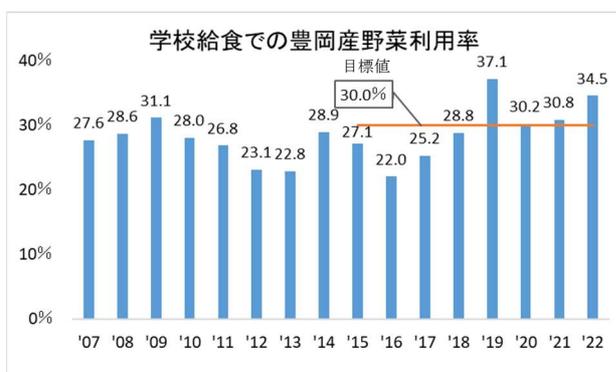
## (2) 環境にやさしい農業



### 《2020年度以降の冬期湛水面積》

年度	2020年度	2021年度	2022年度
面積	338ha	342ha	308ha

## (3) 地産地消



- ・2016年度から、週5回全ての米飯給食でコウノトリ育むお米(減農薬)を使用しており、2022年度からは無農薬のコウノトリ育むお米も期間限定で提供が始まりました。

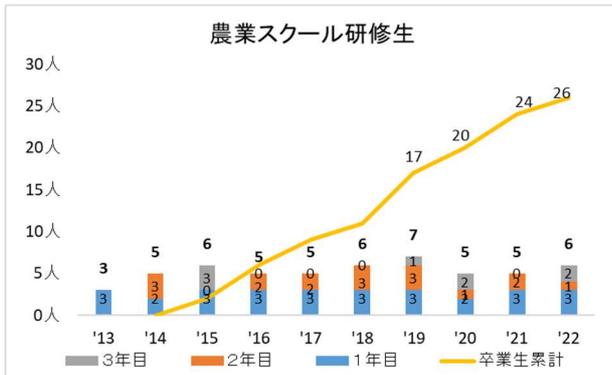
- ・「コウノトリ育む農法」をシンボルに、新たな栽培方法を導入するなどして、「豊岡型環境創造型農業」〔農薬、化学肥料50%以上減(慣行農法比)〕の普及拡大を図っています。
- ・水稻の慣行栽培では、薄いプラスチックでコーティングされた被覆肥料(一発肥料)とよばれる肥料が省力化のために広く使われていますが、近年プラスチック殻の水系への流出が問題となっています。
- ・コウノトリ育む農法等の環境創造型農業では、被覆肥料を使用しないため、生物多様性の向上に加え、環境負荷も軽減されます。
- ・冬期湛水は、冬にも田んぼに水を張ることで、生きものが豊かになり肥料分を含むトロトロ層(2~5cm)ができることで雑草の種子が発芽しにくく、抑草効果もあります。
- ・2020年度から、冬期湛水実施面積のデータ元である環境保全型農業直接支払交付金の制度変更に伴い、集計方法が変更となったことから、実施面積が減少しました(別表で記載)。

年度	2021 年度	2022 年度
全体販売額(千円)	347,081	381,146
豊岡産物販売額(千円)	305,099	305,882
他産物販売額(千円)	41,983	75,264
豊岡産物販売割合(%)	87.9	80.3

・2022年度のたじまんま豊岡店における豊岡産物販売額(生産者からの委託販売分)割合です。野菜や花、加工品が含まれます。豊岡産物の販売割合は8割を超えています。

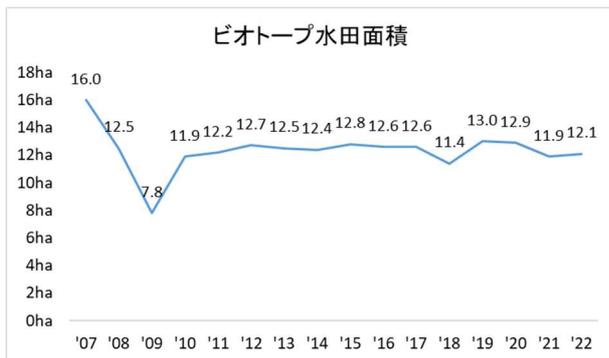
※生産者からの委託販売(農産物、花、加工品)による販売金額

#### (4) 農業スクール研修生



- ・新規就農希望者が、就農に必要な生産技術と経営能力の習得を目指し、1年間(更新で最長3年間)学びます。
- ・卒業生は、雇用就農7名、独立自営就農18名とそれぞれが市内各地でコウノトリ育むお米やたじまピーマン、豊岡ぶどうや但馬牛の繁殖等、豊岡を代表する農畜産物の生産に取り組んでいます。

#### (5) 休耕田の利活用



- ・多様な生きものを育む「ビオトープ(生きものがすむ場所)水田」として市と管理委託契約を結んでいます。
- ・ビオトープ水田から田んぼに復田することもあります。
- ・小学校区ごとの面積については、目標像⑦(p.28)に掲載しています。

## GLA マルシェ開催

# Topics

豊岡市では「豊岡グッドローカル農業 (Good Local Agriculture : GLA) = 『環境』『経済』『社会』をより良くし、持続可能で幸せを感じる社会の実現に貢献する農業のあり方」を推進しています。

2023年3月、但馬空港で開催された第0回豊岡グッドローカル農業大会にあわせて、GLAに取り組む生産者が自身の野菜を対面販売する「GLA マルシェ」が開催されました。マルシェでは地元野菜を使った軽食等も販売され、GLAの周知に加え、その味も知っていただく機会となりました。



GLAの詳細は豊岡市HP(下記URL、2次元バーコード)よりご覧ください



<https://www.city.toyooka.lg.jp/sangyo/1021071/1023680/1023798/index.html>

## 兼業農家の挑戦 ～水田マルチトープ～

Toyooka AgRestart の代表 家元貴司さんは、本業の傍ら兼業農家として2016年から、出石町を中心にコウノトリ育む農法（無農薬）で水稻を2ha栽培しています。

お米の生産販売だけでなく、地域の子どもたちを招いて環境学習に取り組んだり、消費者や旅行者との交流活動を行いコウノトリ育む農法がもたらすさまざまな恵みを人々と共有しています。

そうした活動に加え2021年からは、水田の端にマルチトープを設置されています。設置したマルチトープには、中干しによる水田の落水後にも水がたまり、水生生物の退避場所となるほか、6～7月に巣立ちを迎えたコウノトリの幼鳥たちの格好の餌場となっていました。

マルチトープのように“水深は浅いがいつでも水がある”という湿地環境があることは、面積の大小に関わらず生物多様性の向上、コウノトリの採餌環境の創出にも繋がります。

こうした個人でもできる小さな自然保護活動により多くの人に取り組んでもらえるよう、情報発信や推進に努めます。



## 2 2022 年度評価

### 評価

- 学校給食での豊岡産野菜利用率が目標利用率を達成している。
- たじまんま豊岡店での委託販売における豊岡産物割合が8割を超えている。
- 環境創造型農業におけるコウノトリ育む農法の作付面積および割合が増加している。
- 農業スクールの卒業生が10年目にして25人を突破するなど若者の新規就農が増加している。
- ▲農家数の減少に伴い経営耕地面積が減少している。



## 目標像④

# あちこちの川や海辺で、子どもたちの楽しむ声がきこえてきます

### 【主な取組みの方向】

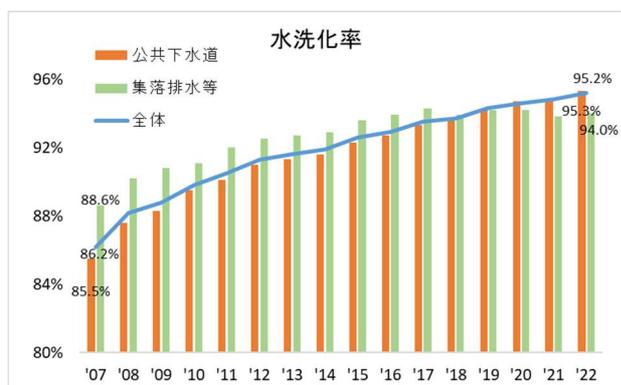
(2) (3) (5) (8) (9)  
(11)

### 【具体イメージ】

市民みんなの協力で川や海がきれいになりました／ポイ捨てをしないという意識が高まり水辺のごみが少なくなっています／水質が改善し、川にはたくさんの魚が泳いでいます／子どもたちが日常的に魚をとったり水辺で遊ぶ姿を見かけています

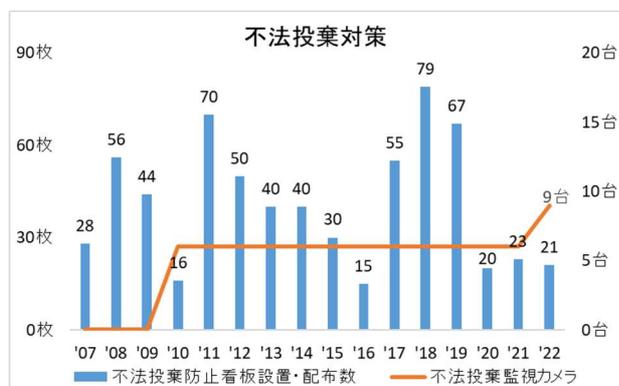
## I 主な指標の変化(2007~2022年度)

### (1) 川の水質保全



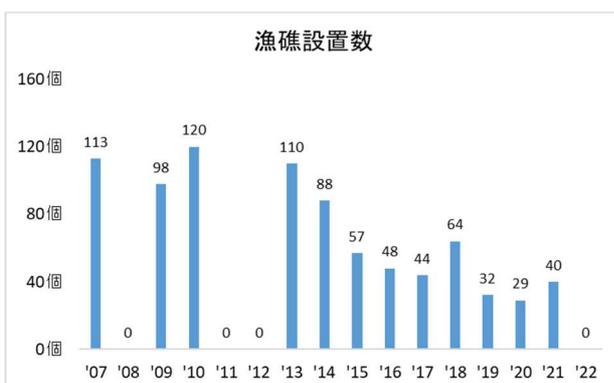
- ・河川の水質浄化につながる「水洗化率」は、95%を目標にしており、公共下水道では2022年度に達成されました。

### (2) 不法投棄対策

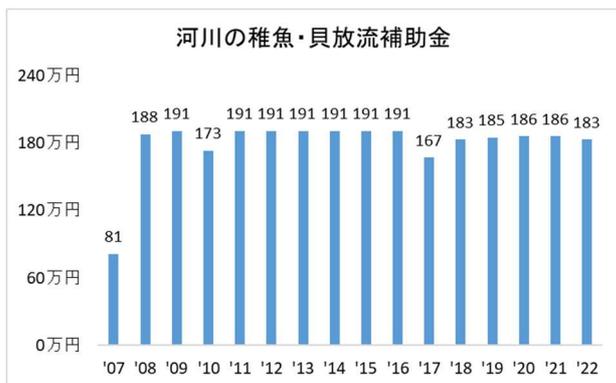


- ・不法投棄防止看板や監視カメラを河川敷や峠などに設置しています。
- ・家庭ごみから自転車まで、さまざまなごみが捨てられています。
- ・市のパトロール班が定期的に巡回しています。

### (3) 水産資源保全

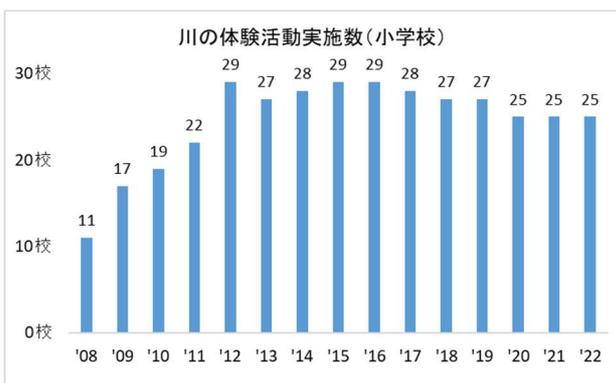


- ・漁礁は、魚類の繁殖と生活のために人為的に海中など水中に設置される魚類のすみか(巣)や集まる場となるものです。
- ・2019年度以降は漁礁設置効果調査が実施され、設置する漁礁のサイズが大きくなったことにより設置数が減っています。



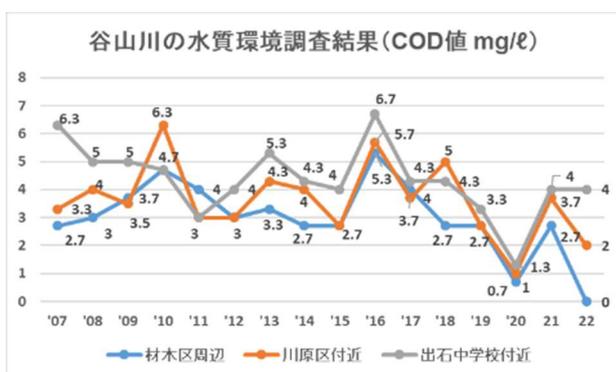
・豊岡市が、円山川漁業協同組合(アユ、ハマグリ)と竹野川漁業協同組合(アユ、アマゴ)に補助しています。

#### (4) 子どもたちの体験活動等



・2007年度に兵庫県下で「環境体験学習(小学3年生対象)」が導入されたこともあり、授業で自然体験が取り入れられています。  
 ・学校での活動の他、民間団体等も体験活動を実施しています。

※統廃合により市内の小学校数は、減少しています。2012年まで30校、2013年から2020年まで29校、2021年から27校、2022年から25校



・国土交通省が毎年実施している「身近な水環境の全国一斉調査」に併せ、2007年度から環境ネット出石が子どもたちと一緒に谷山川の水質調査や生きもの調査を実施しています。

・CODとは水中の有機物残存量を示すもので、値が低いほど水質が良いということを示しますが、直前の天候や水量によって数値に影響が出る場合もあります。

#### (5) 清掃活動

川沿いや海水浴場のある浜などで、地域住民やボランティアなどによる清掃活動が毎年行われています。2022年度もさまざまな団体により河川、浜清掃が開催されるなど、新型コロナウイルス感染症対策を講じながら清掃活動を実施されました。

ボランティアで清掃活動をしてくださる市民や事業者がいることで、海や河川がきれいに保たれています。回収されている方々を頼るだけでなく、すべての人が【ごみを出さない】という努力をすることも求められます。

## 《活動例》

### 川清掃

清掃場所	活動主体
円山川河川敷、谷山川 等	円山川菜の花の会、谷山川を育む会・まもり隊、豊岡市商工会出石支部、下宮区 等

### 浜清掃

清掃場所	活動主体
気比の浜、田結の浜、竹野海岸 等	港中学校、港小学校、港認定こども園、気比区、瀬戸区、田結区、豊岡総合高等学校インターアクトクラブ、クラーク記念国際高等学校、近大附属豊岡高等学校、竹野観光協会青年部、豊岡市 等

## Topics

### みどりの日 自然環境功労者環境大臣表彰

下鉢山の水田ビオトープ「六方めだか公園」が2022年度みどりの日自然環境功労者環境大臣表彰【いきもの環境づくり・みどり部門】を受賞しました。

六方めだか公園は1999年からメダカをはじめさまざまな水生生物やカヤネズミ、タコノアシといった多様な動植物が身近に観察できるビオトープとして児童の環境学習の場や、地域住民の憩いの場として活用されてきました。

この度、その長年にわたる自然環境の保護活動に対し自然環境功労者環境大臣表彰が贈られました。



## 2 2022 年度評価

### 評価

- 子どもたちの水辺での体験活動が定着している。
- 清掃活動に取り組む方々が増えている。
- 川の水質保全につながる下水道の水洗化率が目標の95%を達成。
- ▲不法投棄対策により家電等の大型ごみの不法投棄は減少しているが、空き缶等の不法投棄は未だ減っていない。

この調子で  
がんばろう

## 目標像⑤

# コウノトリも住める豊かな生態系が、バランス良く保たれています

### 【主な取組みの方向】

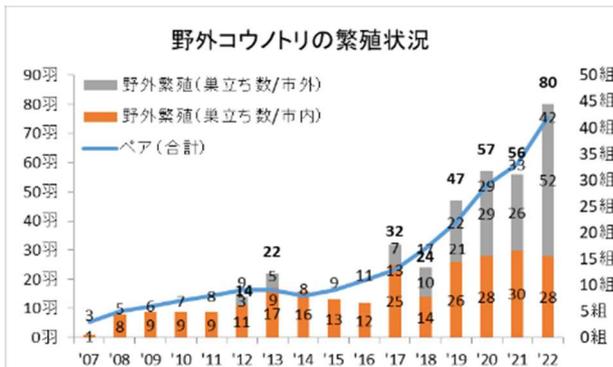
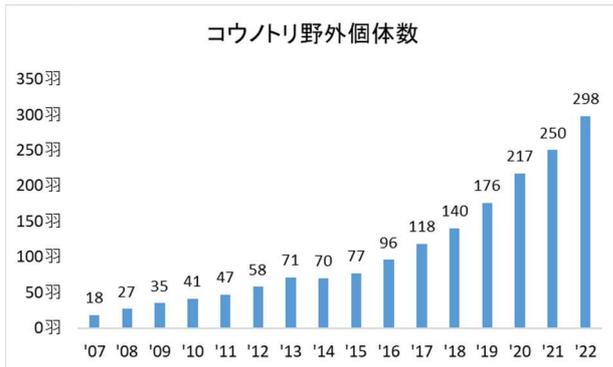
(1) (2) (3) (4) (5)  
(7) (8) (9) (10) (14)

### 【具体イメージ】

コウノトリ育む農法や市民に守られた湿地が市内全域に広がっています／コウノトリのエサになる生きものが増え、生態系のバランスが保たれています／コウノトリが市内各地に舞い降りています／コウノトリも住める豊かな環境づくりの取組みがさらに進んでいます

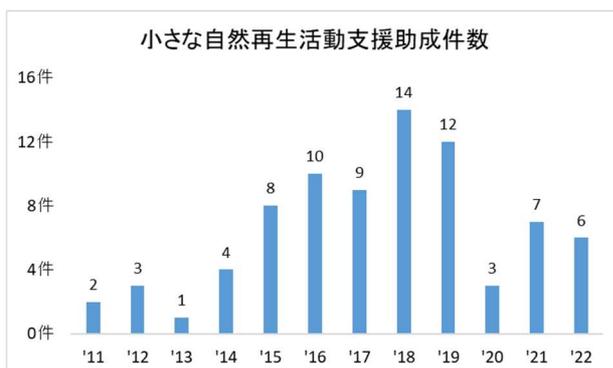
## I 主な指標の変化(2007～2022 年度)

### (1) 野外のコウノトリの状況

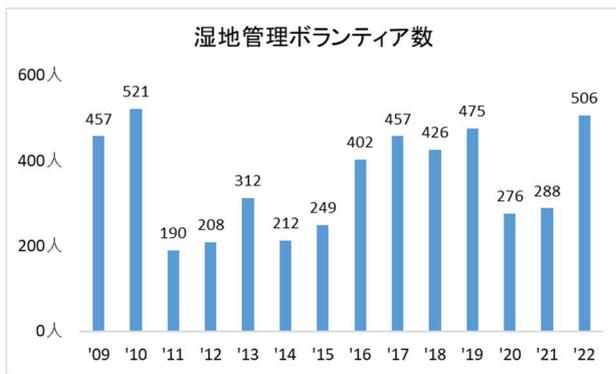


- ・2005 年の試験放鳥から、野外コウノトリの自然繁殖も進み、個体数は順調に増加しています。
- ・野生復帰したコウノトリは、市内だけでなく、全国各地を訪れています。2017 年度には、47 都道府県全てでコウノトリの飛来が確認されました。
- ・常時 60 羽程度のコウノトリが市内に生息していると推測されています。
- ・2022 年度の野外繁殖地(市外)は、新規営巣した 3 市町を含め、市外 17 市町で繁殖しています。
- ・営巣地の内訳は養父市、朝来市、淡路市、栃木県小山市、石川県志賀町 (New)、福井県鯖江市 (New)、越前市、小浜市、京都府綾部市、京丹後市、鳥取県鳥取市、八頭町、北栄町 (New)、島根県雲南市、徳島県鳴門市、佐賀県白石町 (New) です。
- ・繁殖ペアが増えてきた一方、巣立ち後の幼鳥が防獣ネットや電気柵に絡まり、救護・死亡する事例が増加しています。

### コウノトリが生息できる環境の整備



- ・小グループで身近な自然を再生する「小さな自然再生活動(ビオトープづくり、外来生物の除去など)」を支援しています。
- ・2019 年度から、補助上限額が 10 万円から 5 万円に変更になりました。
- ・2020 年度は、新型コロナウイルス感染症対策による活動自粛により申請件数が減少しましたが、2021 年度以降はコロナ禍以前の半数程度で推移しています。



- ・戸島、田結、加陽などの湿地では、市内外からのボランティアを受け入れ、湿地づくりや外来種駆除などの保全・管理作業を進めています。
- ・2020、2021年度は、新型コロナウイルス感染症対策の影響により、ボランティアの活動自体が少なく、参加者数も減少していましたが、2022年度はコロナ禍以前の水準に回復しました。

- ・豊岡河川国道事務所(国土交通省)は、円山川水系河川整備事業の一環として、湿地の整備を行っています。
- ・2020年度に正確な湿地整備面積が算出されたことにより、面積が大きく増加しています。



※国土交通省豊岡河川国道事務所「円山川水系河川整備計画（国管理区間）の概要」

[https://www.kkr.mlit.go.jp/toyooka/maruyamagawa/pdf/38\\_KASENSEIBI\\_KEIKAKU\\_GAIYOU.pdf](https://www.kkr.mlit.go.jp/toyooka/maruyamagawa/pdf/38_KASENSEIBI_KEIKAKU_GAIYOU.pdf) から抜粋

※現在整備事業中の箇所も含まれます。

## 生物多様性地域戦略短期戦略Ⅲ策定

豊岡市では、2013年に生物多様性地域短期戦略の第1期、2018年に第2期の短期戦略を策定し、「穏やかに響きあう いのちと地域」の実現を目指してきました。

2022年度に策定した短期戦略Ⅲでは、学識経験者に加え、各産業分野に携わる方々、県や国といった行政機関等、幅広い分野の方々に参画いただき、当初設定した目標や基本戦略は維持しつつ、取り組み内容の具体化やいくつかの数値目標を設定し、目標の実態が把握しやすい形となりました。

また、「第一次産業の価値を評価する」という方針を新たに設定し、第一次産業従事者の生業の結果が単なる食糧生産としてだけでなく、景観の維持や生物多様性の保全へ貢献していることを再認識する機会とします。

<https://www.city.toyooka.lg.jp/shisei/keikaku/1019146/1023765/1023766.html>



豊岡市 HP (下記 URL・右記二次元バーコード) からご覧いただけます。



## 2 2022 年度評価

### 評価

- 市内外でコウノトリが順調に繁殖している。
- 円山川自然再生事業により、湿地の改良と造成が行われ、ボランティア等による湿地保全活動が継続されている。
- ▲外来種駆除が難航している。



※外来種とは、もともとその地域に生息・生育していないのに、人間の活動により意図的・非意図的に持ち込まれた生きもののことです。中でも、在来の生きものに悪影響を及ぼす外来種を侵略的外来種と呼びます。豊岡市では写真のような外来種が生息・生育しています。



ブルーギル



ヌートリア



カダヤシ



オオフサモ



オオキンケイギク

## 目標像⑥

# さまざまな世代の人々が、地域の祭りや行事を楽しみ、未来へとつなげています

### 【主な取組みの方向】

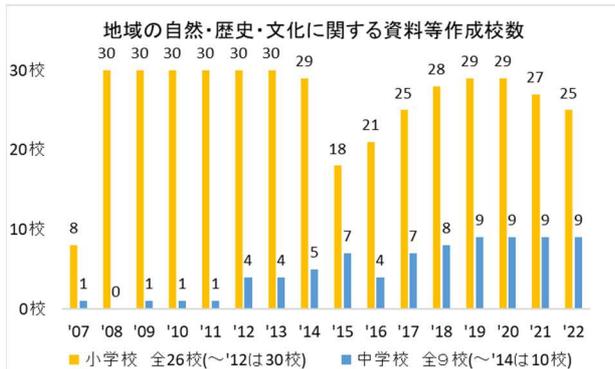
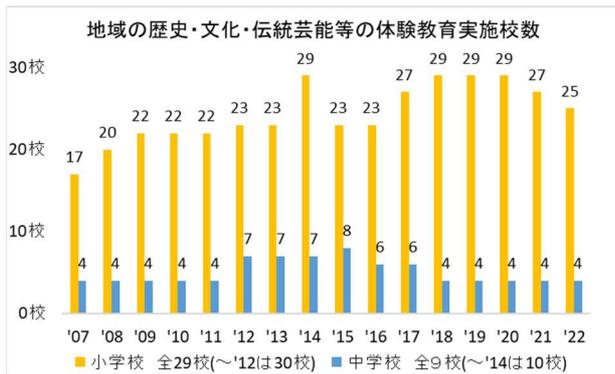
(7) (8) (9)

### 【具体イメージ】

地域の祭りや伝統行事のことを、おじいちゃんやおばあちゃんが孫に語りかけています／子どもたちが地域の祭りに参加して楽しんでいます／地域の誰もが、地域の文化や歴史に関心を持ち、誇りに感じています

## I 主な指標の変化(2007～2022 年度)

### (1) 地域を学ぶ機会



・学校教育の中では、“地域を知る”という視点を意識して地域の「歴史・文化・伝統芸能」の体験教育に取り組んでいます。

※統廃合により市内の小学校数は、減少しています。2012年まで30校、2013年から2020年まで29校、2021年から27校、2022年から25校

※市内の中学校数は、2014年まで10校、2015年から9校

・2019年4月26日にリニューアルオープンしました(改装工事のため、2月20日～4月25日まで休館)。

・2020年度、2021年度は、新型コロナウイルス感染症対の影響により、来館者数が減少しましたが、2022年度は特別展の盛況もあり、コロナ禍以前の水準に回復しています。

歴史博物館「但馬国府・国分寺館」では、公開講座を実施しています。

年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
公開講座	5件	5件	14件	11件
参加人数	147人	28人	220人	174人

## (2) 豊岡市の無形民俗文化財

第3部「豊岡市の環境の状況」(p.48) 参照

### 地域コミュニティ

地域コミュニティづくりは、若者から高齢者まで、男性も女性も、多様な住民が参画しながら地域の未来を見据えて住民自治を進める取組みです。地域コミュニティ組織では、自ら「地域づくり」や「課題解決」を行っています。

### <地域コミュニティの行事事例>

各区では、地域の歴史・文化等に関する行事や広い世代の交流行事が行われています。

出典：2022年度地域コミュニティ組織活動事例集

#### 中竹野地区コミュニティ【ふれあいマーケット・移動販売】

中竹野地区コミュニティセンターでは、毎週水曜日の13時に「ふれあいマーケット」を開催しています。地域住民の方から畑でとれた野菜等を出品していただき、センター前で安全安心な地元の野菜を販売しています。中竹野地区の方だけでなく、他の地区の方やたまたま立ち寄られた方などたくさんの方にお越しいただいています。

また、高齢者の方の見守りも兼ねて個人宅を訪ね、買い物が困難な方へ野菜販売も行っています。



#### コミュニティたかはし「たかねっと」【こども応援プロジェクト「つばめ」】

「子ども達のチャレンジする心と成長、仲間づくりを応援」

高橋小学校が閉校後も地域の子供たちが安心して集まれる場所、地域住民との交流の場として、子どもや保護者が中心となり、子ども達の「やりたいこと」を実現する活動です。

フリーマーケットやこどもカフェ、高齢者の方へのクリスマスカードづくりで地域と繋がりを持ち、多世代交流ができました。



他の地域コミュニティの活動事例については、  
豊岡市地域コミュニティ HP（下記 URL、右記二次元  
バーコード）からご覧いただけます。  
<https://toyooka-community.city.toyooka.lg.jp/>



## 第 50 回出石お城まつり開催

2022 年 11 月、新型コロナウイルス感染症のため開催自  
粛されていた「出石お城まつり」が 3 年ぶりに開催されまし  
た。

今回で 50 回目の節目を迎えたこともあり、姉妹都市の長  
野県上田市から招いた信州上田真田陣太鼓の演奏や、真田鉄  
砲隊火縄銃の発砲演武に加え、兵庫県警察音楽隊の演奏な  
ど、例年にない特別な企画が目白押しで開催され、23,000  
人もの来場者がありました。

この他にも新型コロナウイルス感染症のため、各地で自  
粛されていたお祭りが再開されつつあり、再びまちににぎやか  
な声が広がってきています。



# Topics

## 2 2022 年度評価

### 評価

- 各地域コミュニティで特色のある活動が行われている。
- 地域の自然・歴史・文化に関する資料を作成し、地域を  
学ぶことが子どもたちに浸透している。
- ▲少子化、高齢化の進行により、伝統行事の継続が難しくなっ  
てきている。



# 目標像⑦

## 子どもたちが、身近な地域の自然についてよく知り、大切にしています

### 【主な取組みの方向】

(1) (2) (3) (4) (5)  
(8) (9) (10) (14)

### 【具体イメージ】

地域の環境をよくする取組みが広がり、自然が豊かになっています／自然のことをたくさん学んだ子どもたちがよく外遊びをしています／子どもたちを地域の人が見守っています

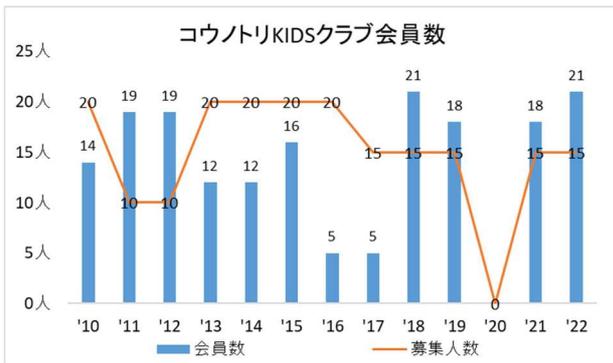
## I 主な指標の変化(2007～2022年度)

### (1) 自然を学ぶ機会



- ・小学校の生きもの調査のなかで、市が指導を担当した数です。独自に実施している学校もあります。

※統廃合により市内の小学校数は、減少しています。2012年まで30校、2013年から2020年まで29校、2021年から27校、2022年から25校



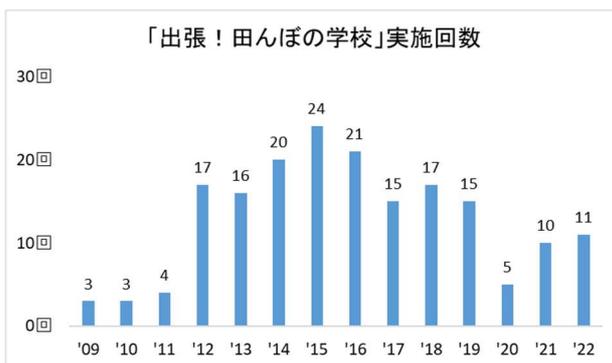
- ・コウノトリ KIDS クラブは、コウノトリとその生息を支える自然を深く学ぶ、市主催の活動です。

- ・対象：市内小学4～6年生

- ・2020年度は、新型コロナウイルス感染症対策の影響により、コウノトリ KIDS クラブの募集が取りやめとなりました。

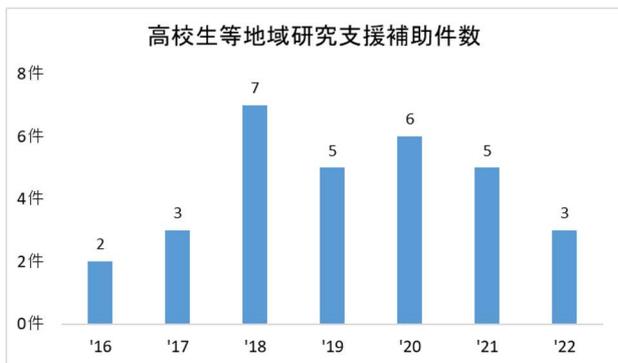
- ・2021年度から再開し、2022年度も募集人数を上回る21人が参加しています。

- ・2022年度は青森県むつ市や宮城県南三陸町の子どもたちとオンラインで交流し、各地の川や海にすむ生物の違いを学びました。



- ・「出張！田んぼの学校」では、NPO 法人コウノトリ市民研究所のスタッフが、各地域の主催で行われる生きもの調査に講師として出向きます。

- ・2020年度は、新型コロナウイルス感染症対策の影響により、実施する団体数が減少しましたが、2021年度、2022年度は元の水準に回復しつつあります。



- ・高等学校、高等専修学校の生徒が行うふるさと豊岡の誇りであるコウノトリ等に関する研究や調査、活動等を支援しています。
- ・ふるさとの知見を深め、将来に渡って豊岡とつながりを持ち、取組みに参加する若者を増やすことが目的です。

### 《2022年度の研究》

申請者	研究タイトル	内容
クラーク記念国際高等学校豊岡キャンパス	豊岡のコウノトリについて学ぶ	ハチゴロウの戸島湿地における講話や湿地保全活動を通して、コウノトリにとって住みよい環境をつくるのが、自身の生活にどう影響していくか学んだ。
豊岡総合高等学校インターアクトクラブ	高校生の湿地などでの環境保全・調査観察活動	市内の湿地において、多様な主体と連携し、希少種保全、除草や海岸清掃を実施し、但馬の環境保全を考える事例発表会（兵庫県主催）にて発表を行った。
出石特別支援学校	高等部「コウノトリはばたけ学習」	コウノトリ文化館での学習や、出石町水上区のコウノトリの観察を通じ、自然を愛する気持ちを育んだ。またコウノトリ育む農法で作られた米粉で調理実習を行う等の活動した資料を作成し、地域に対して普及啓発を行った。

### (2) 学べる地域環境

環境学習フィールドとしても活用できるよう、ビオトープ水田の設置を進めています。

2022年度は管理（年間通じての湛水等）が困難なビオトープを水田ビオトープ維持管理業務委託契約から外す一方で、既存地区のビオトープが増加しました。

### 《市内各小学校区のビオトープ水田面積》

(単位: a)

地域	小学校	面積	地域	小学校	面積	地域	小学校	面積	地域	小学校	面積			
豊岡	豊岡	0.0	豊岡	神美	154.5 (-5.7)	日高	府中	74.9	出石	弘道	7.5			
	八条	103.9 (-0.1)					八代	10.8		福住	9.4			
	田鶴野	47.7					日高	41.0 (-0.5)		寺坂	0.0 (-42.0)			
	三江	62.3		城崎			城崎	0.0		静修	0.0	小坂	0.0	
	五荘	232.5		竹野			竹野	16.8		三方	103.0 (+18.0)	小野	69.2	
	新田	0.0								清滝	19.1	但東	合橋	212.6 (+44.0)
	中筋	17.2								高橋	0.0			
港	5.2	資母	22.1											

※合計面積の推移は p.16 に掲載。数値下の ( ) は前年度との比較数値

※コウノトリ生息地保全対策事業におけるビオトープ設置分のみ記載

## ミズアオイの保護活動（出石）

出石ミズアオイの会では、谷山川に生育する準絶滅危惧種の植物である「ミズアオイ」を地元の有志や学生たちが協力して保護しています。

2022年度は、8月4日出石高校・出石中学校の生徒たち（127名）がボランティアで保護活動を行い、大繁殖して川の流れを妨げていたミゾソバや特定外来種のオオフサモ等の除草作業および、ミズアオイの生育場所となるワンドの造成、ミズアオイの移植等の活動を行いました。

活動に参加した生徒からは、谷山川の生態系保護の重要性を理解した、地元の方々の熱心な思いに触れ地域貢献活動への興味が強まった、という感想が聞かれました。



## 2 2022 年度評価

### 評価

- コウノトリ KIDS クラブに募集人数以上の応募があり、豊岡の魅力を地域外に発信していく子どもが育っている。
- 人と自然の共生を学ぶ高校の研究活動が定着している。

この調子で  
がんばろう

# 目標像⑧

## 市民みんなが、ごみの減量化を実践し、1人あたりの排出量が徐々に減っています

### 【主な取組みの方向】

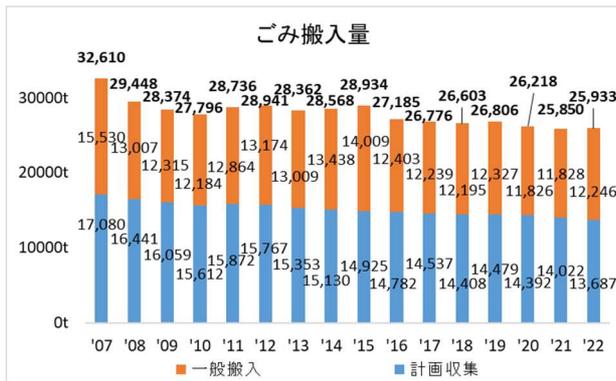
(2) (6) (9) (11) (12)

### 【具体イメージ】

資源ごみ回収ステーションが増えています／みんなが無駄遣いを減らし、分別を徹底することでごみの量が減少しています／生ごみは堆肥などに、廃食用油は燃料として利用され、資源やエネルギーの地域内循環が進んでいます／事業者は、ゼロエミッションの取組みを進めています

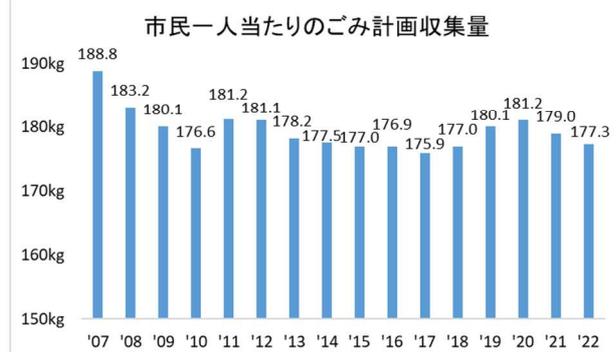
### 1 主な指標の変化(2007~2022 年度)

#### (1) ごみの量



#### 《豊岡市人口(各年度末値)》

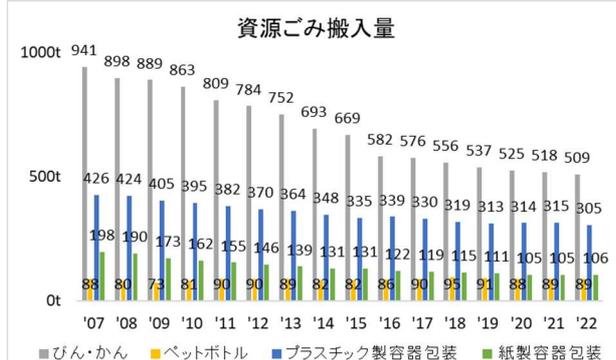
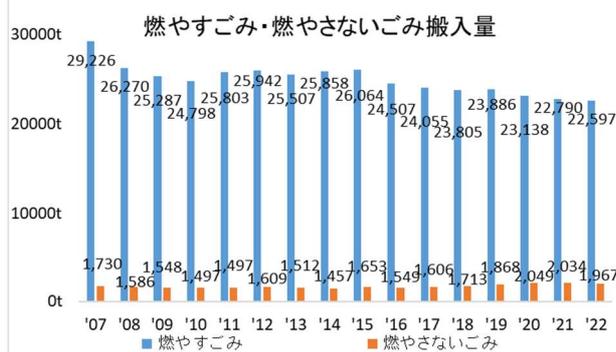
年度	人口	世帯
2007	90,443 人	31,808 世帯
2010	88,407 人	32,313 世帯
2015	84,337 人	32,869 世帯
2020	79,446 人	33,421 世帯
2021	78,348 人	33,546 世帯
2022	77,180 人	33,635 世帯



・ごみの分類ごとの搬入量は、計画収集と一般搬入を合わせたものです。

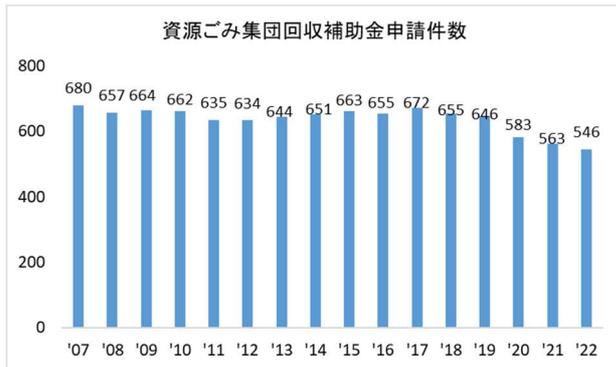
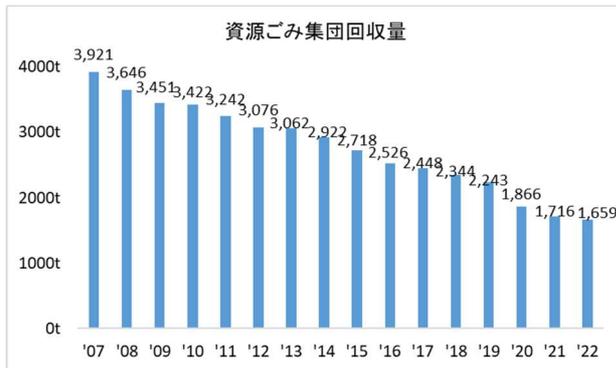
・2016年4月から一部のごみの分別区分が下記の通り変わりました。

- ①燃やすごみで指定袋に入らないものは粗大ごみ
- ②燃やさないごみは、燃やさないごみ・蛍光管・乾電池類・粗大ごみの4分類
- ③1辺20cm以上の缶は燃やさないごみ
- ④プラスチック製品(プラ製容器包装を除く)は、硬さに関わらず全て燃やすごみ



## (2) 資源ごみの回収

ほぼ全ての小・中学校で、資源ごみ回収(廃品回収)やリサイクル活動が行われています。



- ・豊岡市の住民で構成される自治会、子供会、老人会、PTA等の営利を目的としない団体を対象に、資源ごみ集団回収事業補助金を交付しています。
- ・スーパーマーケット等の施設でも、資源ごみが回収されています。
- ・2013年度以降、集団回収量は減少し続けています。
- ・2021年度は、新型コロナウイルス感染症対策の影響により、資源ごみ集団回収が中止されたことで回収量が一段と減少し、2022年度も同水準となっています。
- ・同じ団体が複数の活動を申請していることもあります。

## (3) ごみ回収の取組み



- ・1990年から、毎年6月の第一日曜日を実施基準日として定め、住民が参加する清掃・美化活動「クリーン但馬10万人大作戦」を実施しています。
- ・地域住民がよりいっそうクリーンなまちづくりについて意識を高め、但馬を美しく住み心地の良い地域とすることを目指します。

- ・ごみ回収量は、「燃やすごみ」「燃やさないごみ」のみで、水路の泥上げ作業で出た「土のう」は除いています。
- ・2020年度は、新型コロナウイルス感染症対策の影響により参加人数が減少しましたが、2021年度、2022年度と回復してきています。



- ・ビニールハウス等の農業用廃プラスチックは、年に一度持ち寄って集団処理が行われています。
- ・最終処分を担っている業者では、資源化(サーマルリサイクル、マテリアルリサイクル)処分しています。

### 【サーマルリサイクル】

焼却の際に発生する熱エネルギーを回収・利用

### 【マテリアルリサイクル】

原料として再生利用

## プラごみ削減キックオフイベントを開催

2022年3月、「豊岡市プラスチックごみ削減対策実行計画」を策定しました。

計画目標を「豊かな環境を次世代まで守り続けます」とし、そのための数値目標として「2030年までに使い捨てプラスチックごみをゼロにする」と掲げています。

2022年10月には目標達成に向けたキックオフイベントとなる「みんな一緒にワンモアアクション～地球環境のためにできること～」を開催。Z世代の環境活動家である露木しいなさんの基調講演や、同じく豊岡にゆかりのあるZ世代のトークセッションを行い、それぞれが行っている環境活動や市の環境施策について意見交換されました。

その中で提案のあった市内での給水スポット設置は、ウォータースタンド株式会社の協力を経て、2023年3月の市役所本庁舎を皮切りに、市内各所に導入が広がっています。



「豊岡市プラスチックごみ削減対策実行計画」については、市HP（右記二次元バーコード）からご覧いただけます。



豊岡市内の給水スポット情報は一般社団法人 Social Innovation Japan が提供するアプリ「mymizu」で検索可能です。詳細については団体HPからご覧いただけます。



## 2 2022年度評価

### 評価

- 市民一人当たりのごみ計画収集量が減少している。
- プラごみの削減に向けて、取組みが進んでいる。

この調子で  
がんばろう

## 目標像⑨

# 市民みんなが、楽しみながら省エネ行動を実践し、再生可能エネルギーの利用も増えています

### 【主な取組みの方向】

(6) (9) (12)

### 【具体イメージ】

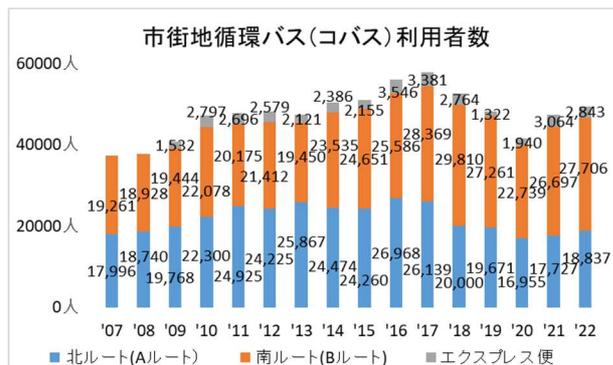
地球温暖化防止の意識が高まり、化石燃料の使用を減らす行動が広がっています／大人も子どもも省エネルギー行動が当たり前になっています／太陽光発電パネルの設置や電気自動車の導入、エコドライブの実践が進んでいます

## I 主な指標の変化(2007～2022年度)

### (1) 公共交通の利用



- ・公共交通機関を利用することで、各乗用車で化石燃料使用が減り、一人当たりの二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)排出量も減らすことができます。

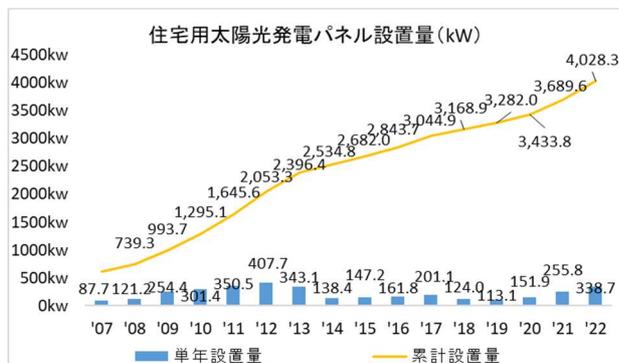
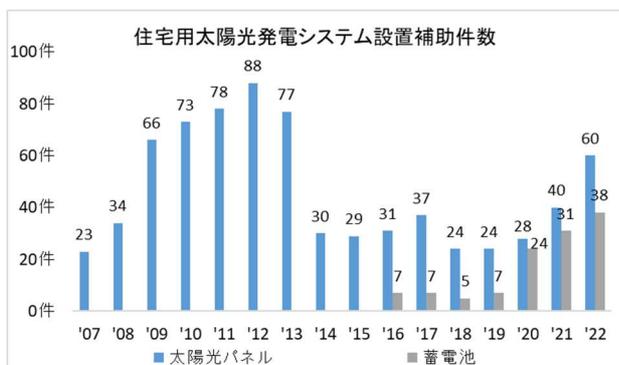


- ・2018年度、コバスの走行ルートが、Aルート・Bルートから北ルート・南ルートに変更されました。
- ・ルート変更に伴い、5カ所のバス停を休止し、3カ所のバス停を新設。各ルートの乗継停留所を豊岡駅とアイティ前に集約しました。
- ・2020年度は、新型コロナウイルス感染症による外出自粛によりコバス利用者が減少したと考えられますが、2022年度はコロナ禍以前の水準に戻りつつあります。
- ・ノーマイカーデー参加者数は第4部 58ページに記載しています。

## (2) 太陽光発電

太陽光発電は、発電時に化石燃料を使用せず、二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)も発生しないため、環境への負担が少ない電力です。生物多様性や景観への影響に対して、適切に配慮しながら導入していくことが求められます。

市の施設への太陽光発電システムの設置は1999年度から行っています。各地域の庁舎や小・中学校、コミュニティセンター等に設置されています。



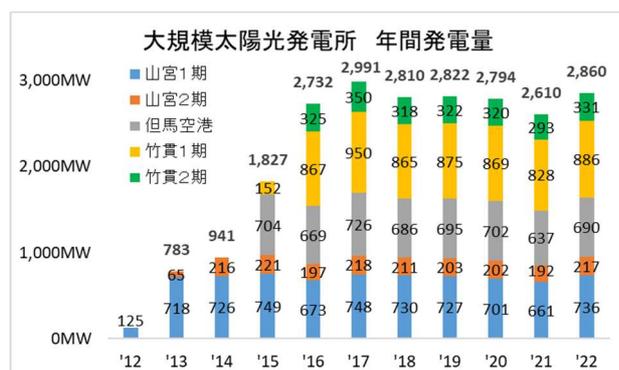
- ・2002年度から住宅用太陽光発電システム設置補助制度が始まりました。
- ・2016年度から、蓄電池も補助対象となりました。
- ・太陽光パネルと一緒に蓄電池をつける場合も後から蓄電池だけをつける場合も対象です。
- ・2021年度から、事業者用太陽光発電システム設置補助制度が始まりました。

### 《事業者用太陽光発電システム設置補助》

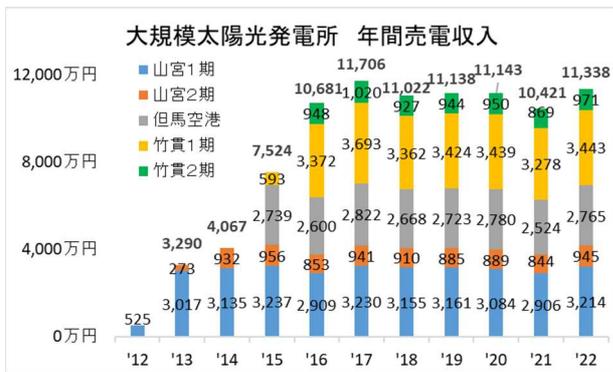
年度	設置事業者数	年間総設置量
2021	2者	25.1kW
2022	4者	53.6kW

### 《豊岡市所有大規模太陽光発電所》

施設名	稼働開始	最大出力
豊岡エコバレー山宮地場ソーラー第1期	2012年度	681.0kW
豊岡エコバレー山宮地場ソーラー第2期	2013年度	318.8kW
コウノトリ但馬空港地場ソーラー	2013年度	677.6kW
豊岡エコバレー竹貫地場ソーラー第1期	2015年度	823.2kW
豊岡エコバレー竹貫地場ソーラー第2期	2015年度	299.9kW



- ・各大規模太陽光発電所は、固定価格買取制度（FIT制度）で20年間売電します。固定価格買取制度終了以降の発電については、公共施設等での電力活用を検討しています。



- 大規模太陽光発電所で発電した電力の売電収入は、設備の維持管理費の他に、太陽光発電システム導入補助、木質バイオマス利用機器設置補助の費用等に充てています。

- CO<sub>2</sub>削減量は、【発電量 (kWh/年) × 調整後排出係数 (環境省が毎年公表)】の計算式で算出しています。
- 調整後排出係数は関西電力の数値を使用しています。

## 豊岡ノーマイカーデーを月2回へ拡充

2022年5月から「豊岡ノーマイカーデー」が毎月第2水曜日と第4金曜日の月2回に拡充されました。多くの方が公共交通機関の利用や徒歩、自転車で移動することでCO<sub>2</sub>の排出が抑えられ、脱炭素社会の実現が近づきます。

ノーマイカーデーでは、全但バス株式会社がノーマイカーデーフリーチケットを販売しており、定額で1日市内の路線バス、コバス、イナカー、チクタクを利用することができ、観光への活用も期待されます。2022年度はのべ23日のノーマイカーデーで1,572枚ものチケットが購入されました。

豊岡ノーマイカーデー 毎月第2水曜日・第4金曜日実施

ノーマイカーデーフリーチケット 1日フリー乗車券 1枚500円 (大人・小人)

全但バス株式会社 豊岡市

# Topics

## 2022年度評価

### 評価

- 住宅用太陽光発電設備の設置が広がっている。
- 大規模太陽光発電所が順調に発電している。

この調子で  
がんばろう

# 目標像⑩

## 環境をよくすることで経済が活性化され、交流も広がっています

### 【主な取組みの方向】

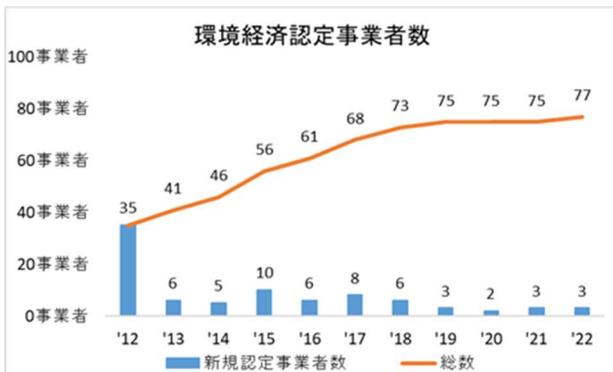
(6) (9) (12)

### 【具体イメージ】

「環境と経済の共鳴」の環境経済戦略がさらに進み、豊岡の知名度が上がっています／人・もの・情報が広域的に行き交う取組みが進んでいます／新たに受け入れた産業や企業、知や技の交流を通じて、豊岡の町が元気になっています

## I 主な指標の変化(2007~2022 年度)

### (1) 環境経済認定事業

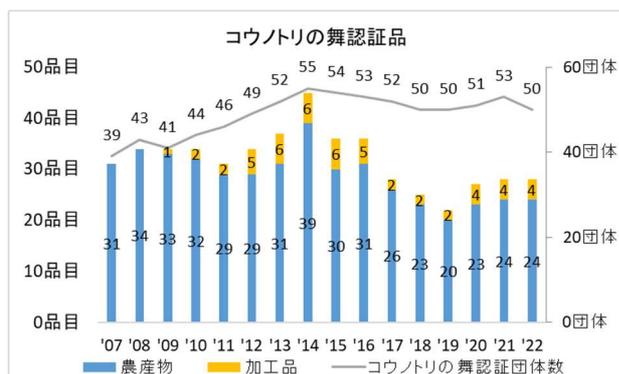


- ・市内の企業で、利益を追求する事業で環境が改善されるものを「環境経済事業認定」しています。
- ・認定事業の実績について、毎年報告が義務付けられており、認定事業が実施されなくなった場合、認定は取り下げられます。
- ・2022 年度までに累計 87 事業が認定され、10 事業が取り下げられました。

### 《2022 年度環境経済認定事業者》

事業者名	認定事業名	事業内容
フィードバッグ	世界に一つだけの手染めバッグの製造	神鍋山の火山灰を使用した天然素材 100%の手染めバッグ「フィードバッグ」の製造・販売。染色時には太陽光のみで染色するため、製造時に CO <sub>2</sub> を一切排出しない。
コニー株式会社	ランドセルリメイク事業	靴職人の確かな技術で、6年間使用したランドセルを鞆や小物にリメイクし、単なる記念品ではなく、特別な贈り物に生まれ変わらせる。
株式会社アートフィアー	環境配慮素材を使用したバッグの製造・販売	廃棄漁網をアップサイクル※したナイロン素材を主素材とした小学生向けのスクールリュック「UMI」の製造・販売。 ※捨てられる製品に新たな価値を与えて再生すること

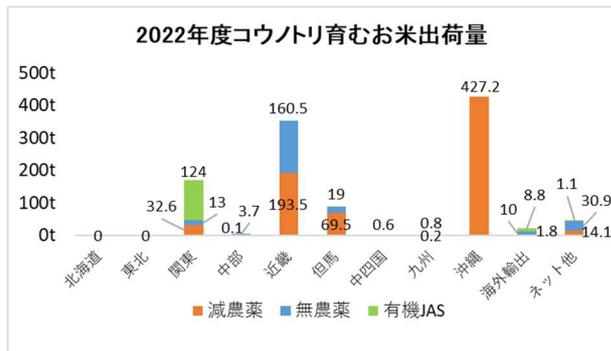
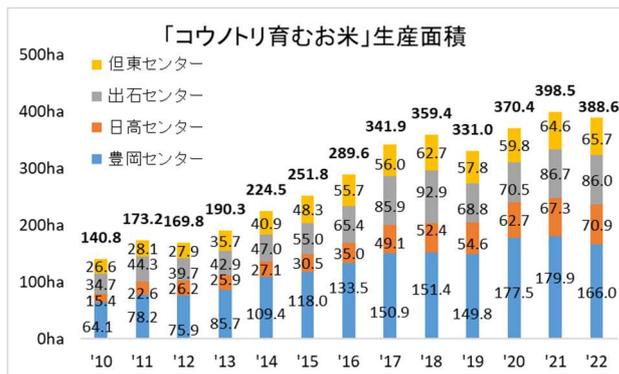
### (2) コウノトリの舞



- ・2022 年度の登録品目 (28 品目)

米 (うるち、酒、もち)、レタス、コマツナ、ハウレンソウ、小麦、ソバ、トマト、バレイショ、シュンギク、だいこん、キャベツ、黒大豆枝豆、大豆、ショウガ、ブルーベリー、ぶどう、ニンジン、オクラ、タマネギ、トウモロコシ、ネギ (青ねぎ、葉ねぎ)、チンゲンサイ、ピーマン、水菜、生姜シロップ、生姜しばり汁、ブルーベリーソース、ブルーベリージャム

### (3) コウノトリ育むお米



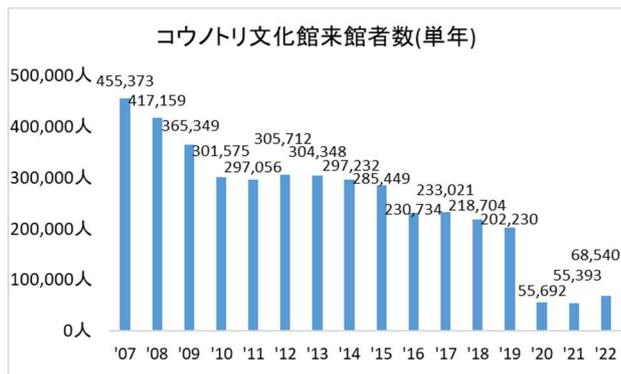
- ・ JA たじま営農生活センターごとのデータです。
- ・ 豊岡市の水田面積の約1割がコウノトリ育む農法水田になっています。

- ・ 2022 年度のコウノトリ育むお米の出荷量約1,111トンのうち、約21トンが海外7カ国に輸出されています。
- ・ 大部分は国内で消費されており、沖縄県および関東、関西の都市圏で消費されています。
- ・ 消費者の食の安全志向の高まりに加え、コウノトリの野生復帰の物語が反響を呼び、コウノトリ育むお米は年々出荷量が増えています。特に無農薬で育てられたものについては品薄になるほど人気となっています。

#### 《コウノトリ育むお米の海外への輸出状況》

年度	輸出国・地域(国・地域数)	輸出量
2016	アメリカ、シンガポール (2)	1.50t
2017	アメリカ、シンガポール、香港 (3)	7.80t
2018	アメリカ、シンガポール、香港、オーストラリア、ドバイ首長国 (5)	17.16t
2019	アメリカ、シンガポール、香港、オーストラリア、ドバイ首長国、台湾 (6)	17.27t
2020	アメリカ、シンガポール、香港、オーストラリア、ドバイ首長国、台湾、スイス、フランス (8)	22.23t
2021	アメリカ、シンガポール、香港、オーストラリア、ドバイ首長国、スイス、フランス、オランダ (8)	18.60t
2022	アメリカ、シンガポール、香港、オーストラリア、ドバイ首長国、スイス、オランダ (7)	20.60t

#### (4) 人・もの・情報の交流



- ・2006年 100万人達成
- ・2008年 200万人達成
- ・2011年 300万人達成
- ・2014年 400万人達成
- ・2018年 500万人達成
- ・2020年度、2021年度は、緊急事態宣言中の閉館により、来館者数が減少しました。2022年度も新型コロナウイルス感染症により、ツアー等の団体客が減少していますが個人旅行者は増加しています。



- ・市民参加によるコウノトリのモニタリング「コウノトリ市民科学」には、全国からコウノトリの目撃情報が提供され、市民間で情報交換がされています。
- ・コウノトリの野外個体数増加に併せて、目撃情報提供数も増加しており、2022年度は過去最多となりました。

【2022年目撃情報内訳】兵庫県 20,505 島根県 1,555 京都府 1,554 福井県 1,150 香川県 1,145

【出典：コウノトリ市民科学まとめ（2023.3月発行）】

#### <宿泊を伴う市外からのボランティア活動による交流・地域活性>

市外の企業や団体、学校が環境保全活動ボランティアの際に、宿泊や観光も行うことで、地域の活性化につながります。ボランティアでは、湿地の乾燥化を防ぐために池を作ったり、草刈や水路を広げる保全作業、外来種駆除等を行っています。2020年度は新型コロナウイルス感染症対策により、ボランティア数が1件に留まりましたが、2021年度は3件に増加しました。

2022年度からは旅行会社により、ボランティア体験がツアー内容に含まれたボランティアツアー（年間複数件 催行）が企画されるようになりました。

#### 《宿泊を伴う市外からのボランティア件数》

年度	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
件数	3件	3件	3件	3件	5件	6件	4件	5件	1件	3件	4団体

## コウノトリの生息地で行うボランティアツアー

2022年6月、10月に地域貢献の取組みとして、JA 共済連兵庫が企画し、神姫観光(株)が実施するボランティアツアーが開催されました。

このボランティアツアーは、コウノトリの生息地である豊岡で実際にコウノトリが暮らせる環境づくりに貢献する活動を行い、かつ市内の観光地を巡るツアーです。

参加者は、ハチゴロウの戸島湿地でコウノトリが見守る中、草刈りや刈り草の搬出を行った後、城崎温泉に宿泊し、翌日は出石を散策するなど、豊岡の観光を満喫していました。

豊岡市では今後もこのような環境保全と経済活動が共生できるような取組みに協力・推進していきます。



## 2 2022 年度評価

### 評価

- 環境経済認定事業が浸透している。
- コウノトリの市外からの目撃情報が増え、市民間での交流が広がっている。

この調子で  
がんばろう

